



医療法人 偕行会

鳥山 高伸 新理事長

名古屋 (愛知)



### 新理事長としての抱負

「この23年、偕行会は大きな変化を遂げ、全国的にも注目を集めるまでのグループになりました。そこまで成長を遂げられたのは、設立当初から法人としての確固たる理念と医療方針があったからだと思います。特に『コメディカルの活躍とチーム医療』が重要であると思っています。透析事業部・病院事業部・在宅事業部・放射線財団はそれぞれ全国トップレベルになっています。法人内の各分野が互いに切磋琢磨する良い意味での競合関係が成長を後押ししてきましたが、競合と同時に連携も大事です。理事長という立場からグループ全体の連携を進めて、更なる発展を目指したい。それは同時に偕行会の医療文化の継承と広がりにもつながります」。

去年の秋、川原会長から次期理事長をというお話をいただいた時にいろいろ

考えられたそうです。

「川原会長のようなカリスマ性はないし、これからも持ち得ない。どのようにしてリーダーシップを発揮していけばいいのか」と考えました。この時に思い出したのがドラッカーの『仕事としてのリーダーシップ』という言葉でした。リーダーシップをカリスマ性や資質ではなく、仕事としてみる。組織の使命を考え抜き、目に見える形で明確にして、目標を定めて優先順位を決めて進む。偕行会の医療方針・文化を誇りに思っているし、偕行会や仕事への情熱は他人には負けないと思っているので、仕事としてやっていけばよいのだ、と考えて、気持ちの整理ができました」。

### 透析の質を高める合併症対策

鳥山先生は、もともと腎臓の専門家、新理事長となられてからも透析医療についての発言には、ことのほか熱がこもります。

「透析医療の現状は厳しいものがあります。質と効率(医療費の削減)を同時に求められているのです。透析分野では『エポ製剤の抱括化』や『透析時間区分の廃止』で、合併症対策どころではなく、エポ製剤の使用制限や透析時間の短縮など医療の質を下げることで経営を維持している透析施設が多くなっています。偕行会の透析は『質も量も』です。透析医療の質を上げながら、医療費の削減に対応するためには治療を受けていただく患者様を増やすしかありません。新しい透析クリニックの開設

診療の合間に理事長室で調べ物をする鳥山理事長



や買収が必要です。また循環器を中心にした合併症対策によって、透析患者様に長生きをしていただきたいと思います。偕行会の一番の特徴は優れた合併症対策にあります」。

「循環器合併症対策の次の段階として、9月から心機能保存プロジェクトがスタートしました。透析患者様は心機能が悪くなりやすいので、βブロッカー(心臓の筋肉の収縮力を弱めて、酸素の消費量を減らし、心臓の負担を軽くする薬)によってできるだけ心機能を良好な状態で維持したい。また心房細動などの不整脈や頻脈も循環器内科との共同で管理する試みです。愛知から始めて偕行会グループ全体に広げていきたいと考えています」。

### 治療は信頼関係の上に成り立つ

「偕行会は多くの患者様に優れた透析医療を提供したいと考えています。医療は医療従事者と患者様の協業です。心機能保存も患者様の自己管理がなければ大きな成果は出せません。食事療法や塩分・水分の制限や内服の管理をお願いします。また、自分の受けている医療に納得されたなら、他の患者様にもこのような透析医療があると紹介してください」。

鳥山高伸先生は名古屋大学医学部を卒業。昭和59(1984)年名古屋共立病院に着任され、川原会長とともに偕行会の基盤を築いて23年になります。川原会長の信頼が厚く、6年前に名古屋共立病院院長に、平成19(2007)年4月から、偕行会の新理事長に就任されました。とても忙しい日々が続いておられるようですが、新理事長としてこれからの偕行会のありかた、目指すものなどをお聞きしました。

(聞き手・五十嵐ベティ)



「仕事への情熱は誰にも負けません」と語る鳥山理事長

一番の特徴は、すぐれた合併症対策  
コメディカルの活躍とチーム医療が重要